

GRF4か国比較研究 星槎大学履修生対象調査 第1次結果報告（2023年1月3日）

実施期間 2022年11月20日～12月10日

依頼メール送信者合計約250名

（11月段階でのグローバル専攻正規生）

なお、本アンケート調査は以下の研究プロジェクトにより実施されたものです。

「教育における官民連携をテーマとする4か国・地域の研究者による国際共同研究プロジェクト」

日本調査 [第二期調査]

研究費名称：The Research Grants Council Hong Kong under the General Research Fund (18603119)

日本チームメンバー：大和洋子、星槎大学 教授；

高山敬太、京都大学大学院 教授；

森いづみ、上智大学 日本学術振興会特別研究員

アンケート調査の結果概要

- 49名の方が回答を試みてくださいました。⇒ 回答 46
- 今回は現職教員（常勤・非常勤・校種問わず：語学学校や塾を含む）を対象とさせていただきましたので、協力依頼をした方たちの1/3～半数近く（83～125）の方たちが該当していたのではないかと思います。
- 正確な回答率は出せませんが、該当者の内40～60%の方が回答してくださったことになります。全員が最後まで回答してくださいました。

ご協力ありがとうございました。

Q1a - 以下のうち、現在の勤務校はどちらになりますか。該当する学校種別のボックスから、一つお選びください。（複数の場合には、主な職場一つについてお答えください。非常勤勤務の方も含みます。）

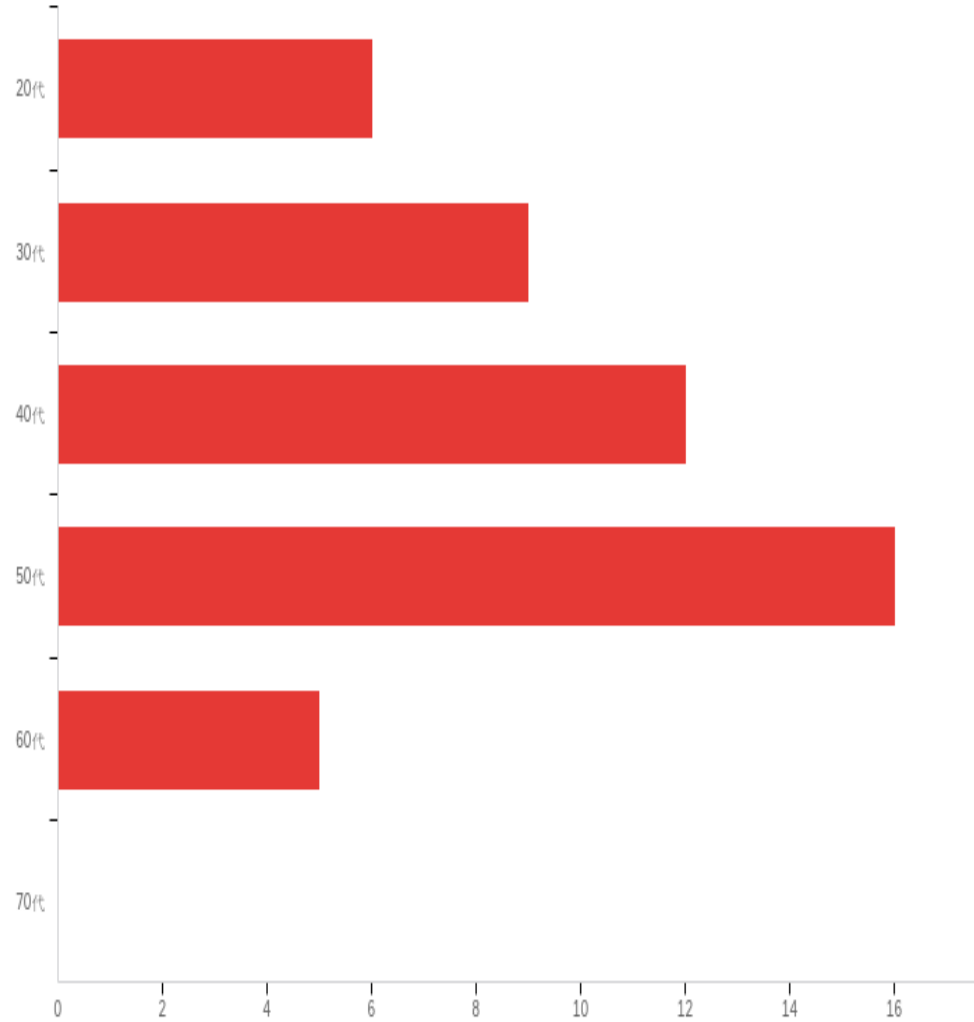
#	Field	最小	最大	平均	標準偏差	分散	数
1	小学校	4.00	4.00	4.00	0.00	0.00	13
2	中学校	4.00	5.00	4.45	0.50	0.25	11
3	義務教育 学校	4.00	4.00	4.00	0.00	0.00	1
4	中等教育 学校	4.00	4.00	4.00	0.00	0.00	1
5	高校	4.00	5.00	4.62	0.49	0.24	13
6	大学	4.00	5.00	4.80	0.40	0.16	5
7	その他（ 語学学校 など）	5.00	5.00	5.00	0.00	0.00	7

回答者の校種は小学校と高校が13人で一番多く、中等教育段階（中学・高校）でまとめると、27人となります。4か国比較では、中等教育の段階を比較します。

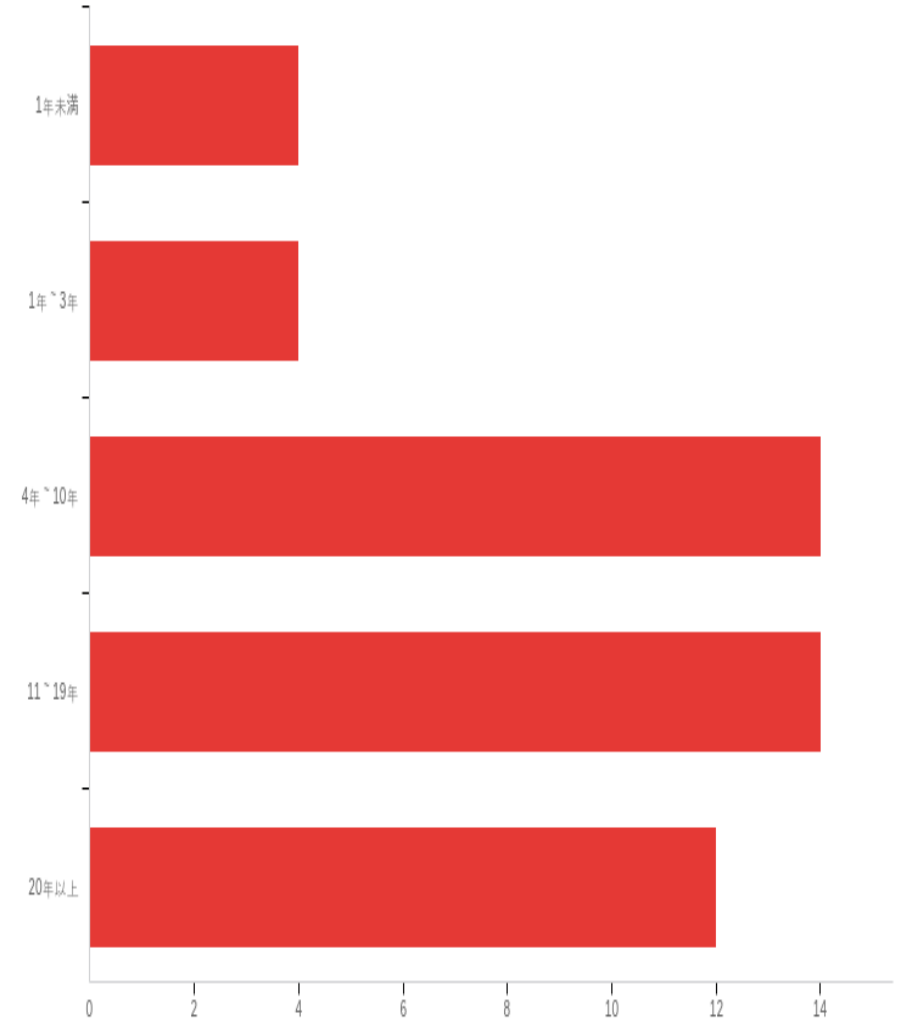
回答者の職場

- ・ 小学校：全て公立学校ご勤務者
 - ・ 中学校：公立と私立がほぼ折半していますが、義務教育学校（小学校と中学校の一貫校）、中等教育学校（中学・高校一貫校）は公立でした。
 - ・ 高校：私立学校の方が公立学校より多くなります。
 - ・ 大学：全て私立大学ご勤務者でした。
- ⇒ 公立・私立で分けたのは、（地方により）私立の方が積極的に外部との連携をしている可能性が高いことが経験値より想定されたため、その確認もありました。

Q1b - あなたのご年代を教えてください。



Q1c - 教員の仕事を始められてから何年くらいになりますか。



Q1bとQ1c年代と教員としての職歴 の2つの問の結果から

・ 回答してくださった方は、比較的職歴が長く、教員として中堅職やベテランの域に達しているかたが多く回答してくださっていました。

⇒ これは後の問にあるICTの活用において、年齢との関係があるのではないかという予測の確認に使わせていただきます。

< 予測 >

- ・ 年齢の若い方たちの方がICT活用に積極的で、官民連携（教育関連業務の外注化や塾講師などが公教育にも携わる事など）にも抵抗がない可能性がある？
- ・ 年齢の高い方の方が紙と鉛筆にこだわる可能性があるかもしれない。実際に新聞にそのような記事が掲載されていました。

Q1d - 主に担当する教科を教えてください。

#	回答	%	数
13	英語	45.65%	21
14	英語以外（空欄にお書きください）	54.35%	25
	合計	100%	46

英語以外
小学校全科目
韓国語
全教科
日本語
音楽
日本語
全科
保健体育
難聴・言語障害通級指導教室
特別支援
理科

英語以外
国語
全教科
日本語
国語
日本語
第二外国語（中国語）
日本語
社会科
数学、社会
国語科、外国語活動、総合的な学習の時間
生物

英語以外
音楽
国際教室
国語

英語科目を担当している方が半数弱、その他の科目担当の方は、種々様々でした。うち、小学校全科目、全教科、全科と答えてくださったのは、小学校教員の方、日本語と答えてくださったのは、外国語としての日本語教師、国語は中学・高校の国語科担当の先生方であることが分かります。また、韓国語や中国語指導（第二外国語）の先生方も回答してくださっています。

アンケート調査に協力してくださった方の学校所在地

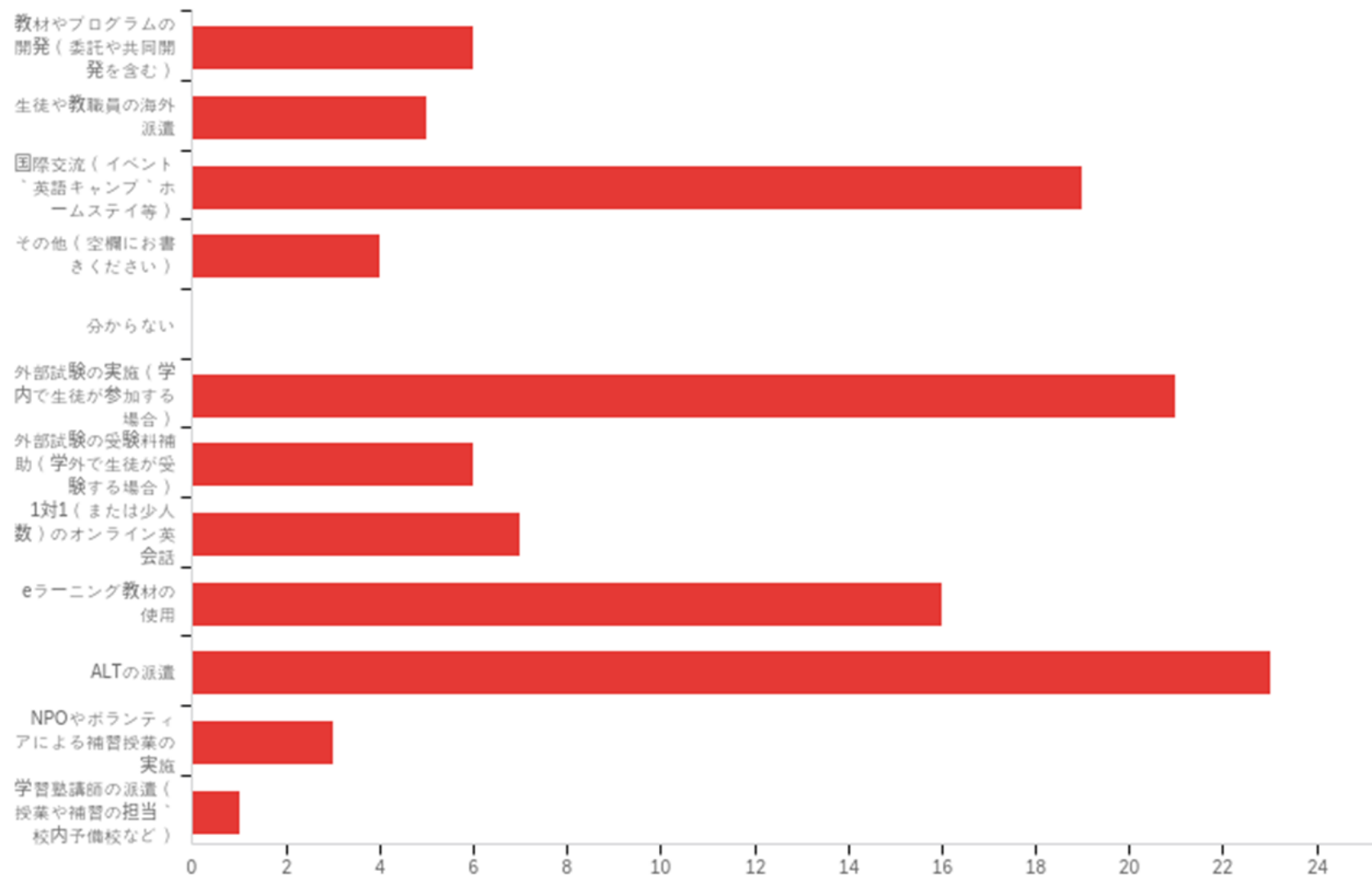
学校種により、都道府県、市区町村別のお願いをしています（公立の場合、高校は都道府県、小中学校の場合、市区町村の教育委員会の管轄になるためです）。回答者が46名ということもあり、個人が特定されないように、都道府県別にお知らせします。

北海道 6, 宮城県 1, 埼玉県 8, 東京都 5,
千葉県 1, 神奈川県 7, 長野県 1, 静岡県 1,
富山県 1, 石川県 1, 岐阜県 2, 大阪府 4,
佐賀県 1, 福岡県 2, 沖縄県 2, 海外 3,

北海道から沖縄まで、全国からのご参加ありがとうございました。海外からのご参加・ご意見も参考にさせていただきます。

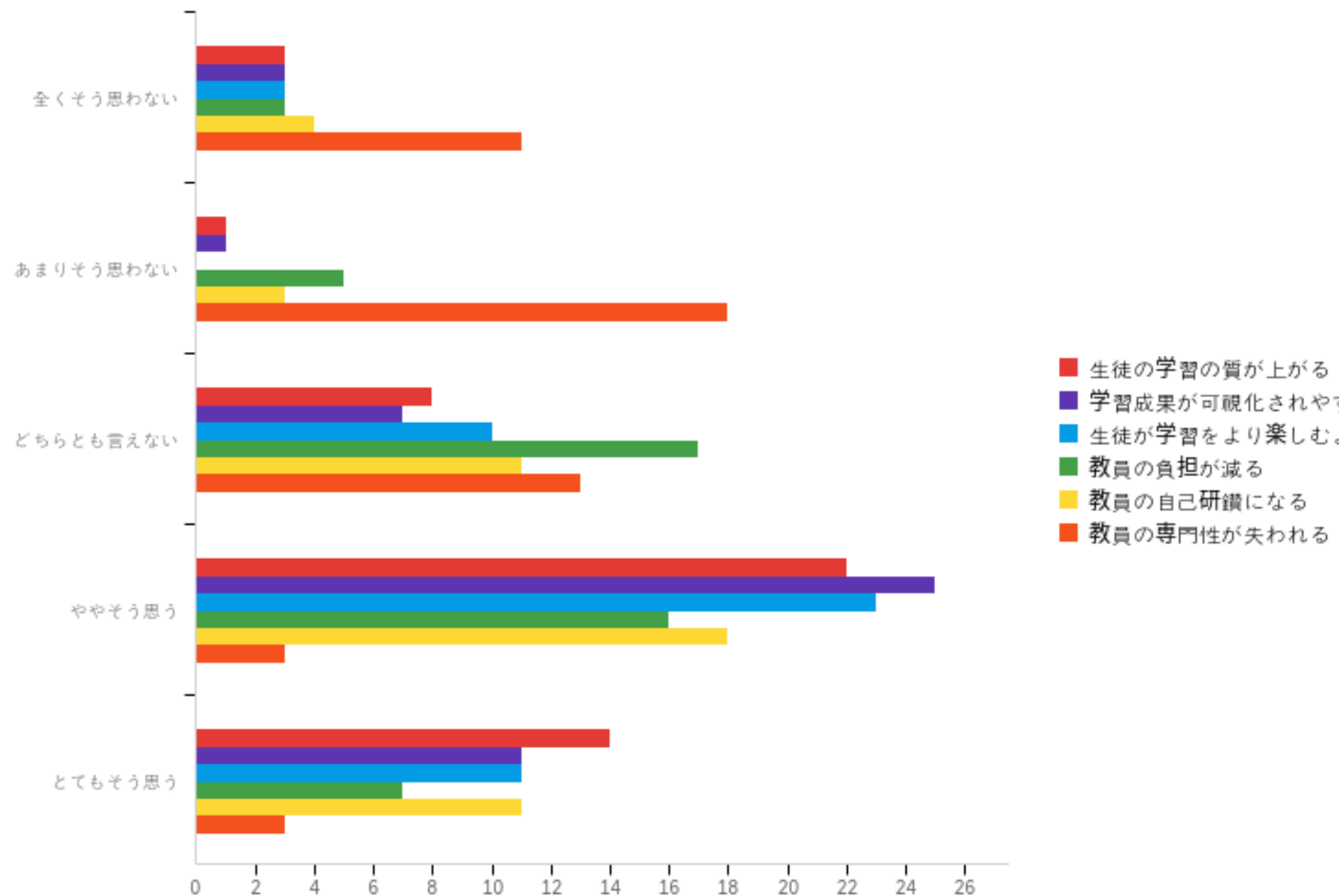
Q2 - あなたの勤務校では、英語教育に関して、外部の企業や諸機関（例：教育産業、学習塾、非営利団体、大学等）との連携やサービスの導入を行っていますか。

想定していた通り、ALTの派遣と外部試験の導入が多かったです。外部試験は他の研究でも導入している学校が多いことが分かっています。母体数が多い外部試験を導入することで、生徒がどの程度の力を付けているのか、どの項目が弱い・強いのかといった分析ができるのは、学内試験だけでは分からない外部試験の強みだからです。



Q3 - 学校が民間企業と連携したり、企業の教材やサービスを導入することについて、どのようにお考えですか。各項目について、ご意見に近いものをお選びください。

企業との連携に関しては、どちらかというところでは歓迎している様子が見られました。特に生徒の学習の質が上がる、学習成果が可視化されやすくなるという点において、どの校種の方も積極的に評価していることが分かりました。教員の専門性が失われるというネガティブな評価をしている方も少ないようです。



民間企業との連携に関する意見（自由記述） その1

・企業との連携を肯定的に考える方でも、条件付きの方が自由記述でその心内を吐露してくださいました。その主なものは、「教員の負担が減るのであれば」「学校業務の助けになるのであれば」という条件付きでした。以下は抜粋です。

「教育のすべてを学校が担うことは不可能であり、ICTを活用した学習支援を含め、有効だと考えられるものは外部委託すべきだと考える。放課後の取り出し授業など、業務に追われる正規教員に代わる存在がいることで現場の負担も減る（ただし、教科主任や管理職の責任のもと）。」

「語学は個別のトレーニングが必要なので、その部分を外部委託するのは理にかなっている。それにより、教員は教えることに専念でき、必要な生徒に必要なサポートを提供することができる。」

「子どものためと思う大切な学びは無限にある。しかし教員の仕事は増えることはあっても、減ることはない。今でも精一杯。外部委託 民間企業との連携 素晴らしい。」

「オーストラリアでは、多くの学校で生徒に一人一台ラップトップを配布。民間企業が作った教材は、やはりプロが作ったものなので、とても役立つ。多くの学校でEducation Perfect を利用。生徒はゲーム感覚で単語を覚えることができる。また、Education Perfect で、宿題の提出やテストの採点を、自動的にしてくれるので、教員の負担が減るだけでなく、保護者にも生徒の頑張りを知らせることができる。生徒が興味を持ち、教員と保護者に役立つ教材は、取り入れたほうがいい。」

* オーストラリアは連邦国家であるため、州政府に教育の決定権があります。学校（そして教員）には何をどう扱うかの裁量分が高く、日本とは事情が異なります。日本も一人一台タブレットは小学校高学年で実現、中学校でも多くの自治体、そして私立学校で導入しています。

民間企業との連携に関する意見（自由記述） その2

しかしながら、否定的なご意見もありました。いくつかを抜粋します。

「大学の教養英語として、どのような連携が可能か不透明」（大学）

「全面的な外部委託は、現場の教職員の自己研鑽にはならない。ただ単に、その業務を別の人をお願いするだけになってしまう。協働の形はよいが、打ち合わせなどで、今以上に忙しくなり、それも負担となるだろう。」

「文科省の方向性を実現するためには、個人的な努力に頼るのではなく、小学校の教員養成課程での英語教育への専門性育成、現職教員への英語教育の専門性の向上が急務だと思う。現職の教員に対しては、どのような形が負担を増やさず、研修ができるかの仕組みづくりを真剣に考えて欲しい。」

「民間の企業を利用することで、保護者の金銭的負担が増していることが気がかりである」

「本校の教育理念をしっかりと理解していただいた上で、委託・連携をすることが重要。」

「学校はソフト面の教材を購入していく予算が少ない。ここを援助してもらえれば...」

「特に公立中学校の定期テストに対して、ぜひ外部の先生や教材の導入を進めていただきたい。また、テストも公平にするため、学校ごとや担当教員ごとではなく、自治体ごとに専門の先生が作成し、生徒たちにもっと力が付くようにするべきだ。」

その 3

- ・ 民間連携や外部委託において最も重要でありながら、現状、軽視されているのは、その質の確保である。これは、人的な「質」と教材や授業といった中身の「質」の両方においてである。ALTの派遣を受けている勤務校の1つでは、明らかにネイティブというだけで、誤った文法や学術レベルに耐えられないスラングや教育を受けていない発音で、学位すらまともに所持していない者も多く採用しているが、委託先であることから大学からは採用基準などを確認したり、問題の指摘すらできない。

- ・ 予備校や塾の講師のオンライン公開されている講義には、明らかに英語学上、間違っていたり、他と混同している部分があり、受験としては構わないのかも知れないが、大学において、こうした内容を行うことは、専門家である大学教員と予備校教師が「同じ壇上の先生」として学生に受け止められることで、混乱させ、今後の語学学習や専門学習において、極めて有害であると言える。しかしこれを歯止めし、チェックする体制づくりは難しい。

- ・ 民間企業への外部委託で、(中略) そうした高い学術性と、それを背景にした教育力を担保した教材の作成は困難。これは、試験の外注についても同様。また、請け負う民間会社が民間資格試験の実地に深く関わっている場合などは極めて多いわけだが、公平性だけでなく、そうした偏った試験英語を学ばせること自体が、大学での語学教育の否定である。

Q5 - 【学校内のパソコンが共通ネットワークでつながっている方にお聞きします】

回答	%	数
Google for Education	48.21 %	27
ミライシード	14.29 %	8
エンサップ	0.00%	0
ライズeライブラリアドバンス	1.79%	1
学びポケット	1.79%	1
その他（空欄にお書きください）	19.64 %	11
教育プラットフォームは使用しているが、名前が分からない	7.14%	4
教育プラットフォームは使用していない	7.14%	4
合計	100%	56

その他（空欄にお書きください） - テキスト
Microsoft teams
teams
ロイロノート Classi
ロイロノートスクール
Teams
メタモジクラスルーム
manaba
ロイロノート
モノグサ
ロイロノート
ロイロノート、モノグサ

多くの学校現場で共通ネットワークでつないでいるのではないかと想定していたのですが、使っていない学校勤務の方もいました。共通ネットワークで使うプラットフォームは、Google for Educationが他を席巻しているのが分かります。ミライシードが若干多めだった他は、ばらけています。多くの現場でICTを活用していることが分かりました。

最初に想定していた年齢による差もほとんど出てきませんでした。

学校または個人のパソコンで教材を作成する際に、使用しているソフトがあれば、該当するものにチェックを

回答	%	数	その他（空欄にお書きください） - テキスト
Kahoot!	8.47%	5	
Padlet	1.69%	1	Education Perfect, blooket
Quizlet	13.56%	8	Microsoft
Canva	11.86%	7	ロイロノート
Jam board	16.95%	10	スコアメーカー
その他（空欄にお書きください）	10.17%	6	マイクロソフト
分からない、使用していない	37.29%	22	GoogleForms
合計	100%	59	各 1

以上、非常に簡単ではありますが、ご協力いただいた結果のみをお知らせいたします。分析は今後、英語関係の学会を通してより多くの教員の方と教育関連業者の双方にアンケートを実施したうえで、自治体の教育委員会にもご協力いただくことになっています。全てのアンケートを集計した上で、日本のアンケート調査の結果を分析したいと思います。

貴重なお時間を頂戴してご回答いただきありがとうございました。なお、全てのご意見を掲載させていただいたわけではない事、自由回答は、主旨を違えない形で多少手を加えさせていただいていますこと（短くする、文末を「だ、である体」に変える、個人が特定されないよう若干の加工をする）ご了承いただけましたら幸いです。この調査結果は星槎の学内だけで公表するものであり、このままの形で外に出すことはありません。